



2024年7月9日（火）
愛知県教育委員会高等学校教育課
進路指導グループ
担当 坂部、櫻井
内線 3896、3916
ダイヤルイン 052-954-6786

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（令和6年度第2回） の開催について

愛知県教育委員会は、1963年に教育長からの諮問により入学者選抜方法に関する事項について研究協議を行う機関として、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会を設置しました。以降、この協議会は、入学者選抜方法の改善に大きな役割を果たしています。

この度、2024年5月27日（月）に開催した第1回協議会議に続き、下記のとおり本年度第2回の協議会議を開催しますので、お知らせします。

なお、協議会議の結果は、会議当日午後3時頃に資料配布にてお知らせします。

記

1 日時

2024年7月23日（火）午前10時から午前11時30分まで

2 会場

愛知県庁本庁舎 6階 正庁
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

3 委員

26名（裏面「委員名簿」のとおり）

4 議題

愛知県公立高等学校入学者選抜方法について
〔諮問事項〕

- ・全日制単位制高等学校における入学者選抜の在り方について
- ・定時制課程及び通信制課程における入学者選抜の在り方について
- ・「連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜」の在り方について

令和6年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議

委員名簿（順不同・敬称略）

◎ 愛知教育大学教育学部数学教育講座特別教授	飯島康之
○ 日本福祉大学国際学部国際学科教授	米津明彦
愛知教育大学教育学部情報教育講座教授	梅田恭子
愛知教育大学教育学部学校教育講座准教授	高綱睦美
名古屋大学教育連携基盤本部特任准教授	橘春菜
めいこう 名古屋工芸大学理事長	林文敏
トヨタ自動車株式会社人事部技能系人事室 採用グループチーフエキスパート	木村共同宏
名古屋銀行人材開発部人事グループ係長	伊藤奈々代
愛知県地域婦人団体連絡協議会副会長	鈴木木みどり
愛知県公立高等学校PTA連合会長	川端やすと利
愛知県小中学校PTA連絡協議会長	今井たかよし喜
名古屋市教育委員会教育長	坪田ともひろ広
大府市教育委員会教育長	まつやまやすし靖
田原市教育委員会教育長	伊藤まさのり徳
愛知県立岡崎高等学校長	高井とし俊直
愛知県立明和高等学校長	栗木はるひさ久
名古屋市立桜台高等学校長	内木やすし志
愛知県立新城有教館高等学校長	牧野のみわ和
幸田町立坂崎小学校長	つづき 都築たかあき明
名古屋市立丸の内中学校長	すずき 鈴木けん健
名古屋市立守山西中学校長	にしわき 西脇じ治郎
武豊町立武豊中学校長	すずき 鈴木かずひさ久
愛知県立豊田南高等学校教諭	ほり 堀直よ予
名古屋市立工芸高等学校教諭	かとう 加藤つかさ司
豊橋市立南陽中学校教諭	さとう 佐藤かつとし利
名古屋市立大森中学校教諭	かわかみ 河上けん太

◎は議長、○は副議長

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（令和6年度第2回）について

1 協議について

5月27日（月）に開催された愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（令和6年度第1回）において、教育長から飯島議長に諮問を行った。今回、諮問事項について、専門員会のまとめに基づいて協議が行われる。

2 諮問事項について

本年度の諮問事項は次のとおりである。

諮問事項1

全日制単位制高等学校における入学者選抜の在り方について

○ 諮問理由

本県では、2022（令和4）年度から**県立守山高等学校普通科**及び**県立幸田高等学校普通科**を全日制単位制高等学校に改編した。全日制単位制高等学校では、従来の学年制に比べて多彩な選択科目の設定や、柔軟な履修を可能とするカリキュラムにより、多様な生徒の学習ニーズに応える学校を目指している。

こうした全日制単位制高等学校の特徴を生かすため、入学者選抜の在り方について、2020（令和2）年度の本協議会議において、推薦選抜は普通科の定員枠を募集人員の10%程度から15%程度までとしていたところを、専門学科や総合学科と同じ30%程度から45%程度までとした。また、一般選抜における傾斜配点や、不登校経験者を対象とする特別な選抜である「全日制単位制高等学校にかかる入学者選抜」を実施し、この選抜の定員を当該高等学校・学科の募集人員の5%程度までとすることなどのまとめを得た。ただし、新たなタイプの全日制単位制高等学校に改編する高等学校ができる場合には改めて協議することとした。

その後、2021（令和3）年12月に本県が策定した「県立高等学校再編将来構想」により、2023（令和5）年度から**県立中川青和高等学校キャリアビジネス科**及び**県立御津あおば高等学校普通科**を全日制単位制に改編することとし、全日制単位制高等学校に商業科が加わることから、2022（令和4）年度の本協議会議において、改めて協議し、現行のとおりとするまとめを得た。

2025（令和7）年度から、「県立高等学校再編将来構想」の具体化の一つとして、2023年1月に本県が策定した「愛知県定時制・通信制教育アップデートプラン」により、既に全日制単位制高等学校に改編し、昼間定時制を設置している**県立御津あおば高等学校普通科**と、**県立佐屋高等学校農業科・家庭科**、**県立武豊高等学校普通科**及び**県立豊野高等学校普通科**の4校は、不登校経験者など多様な学習ニーズをもつ生徒にとって学びやすい高校として、全日制単位制、昼間定時制、通信制を併設するフレキシブルハイスクールとなる。

2026（令和8）年度から**県立日進高等学校普通科**は、不登校経験のある生徒を対象とした併設中学校を設置する。これに伴い、これまでと同様に周辺の地域から入学する生徒に加え、併設中学校から入学する生徒が、高校進級時に個々の状況に応じて能力、可能性を引き出すことができるように、単位制に改編する。

また、同じく2026（令和8）年度から、**県立時習館高等学校普通科**は、これまでスーパーグローバルハイスクール（SGH）やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）で培った探究的な学びをさらに発展させ、将来的な国際バカロ

レアの導入を見据え、生徒が興味・関心に応じて、より柔軟に教科横断的で文理融合の探究的な学びに取り組むことができるよう、併設中学校を設置し、これに伴い、単位制に改編する。

このように、全日制単位制高等学校に、新たなタイプの学校が加わることから、全日制単位制高等学校における入学者選抜の在り方について、改めて協議する必要がある。

諮問事項 2

定時制課程及び通信制課程における入学者選抜の在り方について

○ 諮問理由

定時制課程及び通信制課程の高等学校は、働きながら、あるいは自分の生活ペースにあわせて学ぼうとする者などに対して学習の機会を提供する役割を果たしてきた。

定時制課程及び通信制課程の入学者選抜において、これまでは全日制課程一般選抜を受検したのち、その結果を踏まえて定時制課程または通信制課程を志願する生徒もいることから、1月下旬から2月上旬に前期選抜、3月中旬から下旬に後期選抜を実施してきた。

近年、定時制課程及び通信制課程の高等学校は、働きながら学ぶことを前提とする勤労青年のための学びの場だけでなく、不登校や中途退学の経験者、外国にルーツをもつ生徒など、多様な学習ニーズをもつ生徒の学びの場が変わってきている。

2023年1月に本県が策定した「愛知県 定時制・通信制教育アップデートプラン」においても、定時制課程及び通信制課程では学校に行きづらい子どもたちの不安を取り除き、自分のペースで、将来に向かって、前に進んでいける学びの場や、外国にルーツをもつ子どもたちが、自分の持てる能力を伸ばしながら日本の生活に前向きになれる学びの場を目指し、「誰一人取り残さない」、一人ひとりの個性と能力を思う存分伸ばせる、学びの実現を目指すこととしている。

このような中、生徒はそれぞれの課程の特色を踏まえたうえで、自分にあった課程をもつ高校を主体的に選択している状況があることから、定時制課程及び通信制課程における入学者選抜の在り方について、改めて協議する必要がある。

諮問事項 3

「連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜」の在り方について

○ 諮問理由

本県では、**県立福江高等学校**、**県立新城有教館高等学校作手校舎**、**県立田口高等学校**において連携型中高一環教育を行っており、地域の特色を生かした教育活動を展開することで、地域に根ざした人材を育成し、地域の学校としての活力を発揮するため、中学校と高等学校が教育課程の編成や

生徒・教員間の交流等の連携を深めている。

この3校においては、連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜を実施しており、この選抜は調査書の提出を求めたり、学力検査を行ったりせず、面接の結果、生徒が中学校において中高連携教育の下で取り組んだ学習の成果について自らまとめた「学習のまとめ」の発表の結果、「志望理由」を選抜資料として、総合的に選抜を行っている。

2023（令和5）年1月及び3月に策定した「愛知県中高一貫教育導入方針」により、**県立美和高等学校**及び**県立衣台高等学校**において、連携型中高一貫教育を導入することとした。上記2校では、2024（令和6）年度の中学校2年生から新たに連携型中高一貫教育を開始し、この生徒が受検する2026（令和8）年度入学者選抜から連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜を実施することとなる。

県立美和高等学校では、あま市及び大治町の6中学校と連携して、地域を支える人を育てることを目指し、地域社会と学校が協力し、地元の課題やニーズに対応した教育課程をもとにし、それらを活かした探究活動を行う。また、2025（令和7）年度からは、地域探究科を設置し、地域の素材を活かした授業を展開し、グループワークやディスカッション、大学と連携した探究活動、フィールドワークや実地調査などを行う。

県立衣台高等学校では、豊田市立保見中学校と連携して、外国にルーツをもつ生徒の能力、可能性を引き出すことができるよう、異文化理解、多文化共生をテーマとした探究活動を行うこととしている。

このように、これまでとは異なるタイプの連携型中高一貫教育を行うことから、「連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜」の在り方について、改めて協議する必要がある。